

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第1回 理事会議事録

令和4年2月21日（月）20:00～21:30

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、高相晶士、田中信弘、
千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、波呂浩孝、
松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

※ 会議はweb会議で行われた。

理事長挨拶

2月に入り名誉会員の菊地先生がご逝去された。昨年12月には同名誉会員の小野村先生、その前には辻先生もご逝去されているので、総会ではメモリアルなプレゼンテーションを、それぞれの先生とゆかりの深い紺野先生・根尾先生・川口先生に各5分程度でお願いしたと説明した。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

前回議事録について一同承知し、修正等ある場合は渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（1月分）

1月の入退会について全員を承認した。

3. 側彎症学会メンバーシップ委員会からの依頼（松山理事長）

側彎症学会のメンバーシップ委員会より、JSSRの会員名簿の所属やメールアドレスなど一部のデータを、側彎症学会の名簿を修正していくうえでの参考資料として、側彎症学会内の限られたメンバー（メンバーシップ委員会）のみで閲覧させてもらえないかとの依頼があったと説明した。貸与時には念書を交わす。

審議の結果、側彎症学会メンバーシップ委員会から必要な情報や閲覧者の範囲等を書面で提出してもらい、次回理事会で確認することになった。

4. 大正アワード受賞者の決定

中村雅也選考委員長から報告された今回の大正アワードの選考結果を報告し、一同承認した。

●受賞者●

基礎系 釜場 大介(ウケバ ダイスケ) 北海道大学大学院

受賞論文 Bone marrow aspirate concentrate combined with in situ forming bioresorbable gel enhances intervertebral disc regeneration in rabbits

臨床系 神前 拓平(コウザキ タクヘイ) 和歌山県立医科大学

受賞論文 Adjacent segment disease on hip joint as a complication of spinal fusion surgery including sacroiliac joint fixation.

5. 名誉会員の推薦について

新名誉会員として以下4名の推薦があったとして推薦書を提示した。

小西宏昭(こにし ひろあき) 監事(長崎労災病院) 推薦人: 渡辺理事

小森博達(こもり ひろみち) 評議員(横浜市立みなと赤十字病院) 推薦人: 波呂理事

佐藤哲朗(さとう てつろう) 元評議員(仙台整形外科病院) 推薦人: 小澤監事

島田洋一(しまだ よういち) 評議員(秋田県立医療療育センター) 推薦人: 波呂理事

一同承認し、事務局より受諾依頼等を進めることになった。

6. 専門医制度委員会より: 基幹研修施設更新の審査について 専門医試験新問題の確認作業について

専門医基幹研修施設更新の審査結果について報告した。

- ・更新申請施設 234 施設のうち、1次審査で合格したのは 221 施設(リスト提示)
- ・新規認定 19 施設(リスト提示)

以上はともに 2022 年 4 月からの認定となる。

更新申請施設の 1 次審査で保留となった 13 施設のリストを提示し、抄録に不備があった 7 施設については再提出を促し 5 施設は合格となったが、適切なものが提出されなかった 2 施設は不合格としたと報告した。一同検討の結果、委員会での審査結果を承認した。

続いて、専門医試験用の新問題集のゲラを提示し、理事・監事には一人 8 問程度の問題

を割り振ったので、不備等あれば3月4日までに波呂副理事長へメールで意見を寄せることになった。

指導医で専門医試験未受験者がかなりいることは問題であるので、まずはその名簿を確認することになった。

7. ヒストリアン委員会より：1) 印刷会社の選考 2) 50年記念誌の仕様の件 3) 配布数の件

50年記念誌について3件の審議を依頼した。

1) 印刷会社の選考

依頼する印刷会社を検討しているが、日本脊髄障害医学会の50年誌が、紙質もよく低料金だった（2000部で発送費含め500万円程度）ので、それに倣えたらと考えている。業者は米子市にある今井印刷であり、永島委員長の所属に近いという点も利点になるため、本件を今井印刷に依頼してよいか。

一同検討の結果、承認した。

2) 50年記念誌の仕様の件

上記の日本脊髄障害医学会50年誌が見本になるとして、その仕様について説明がなされた。日本脊髄障害医学会50年誌に準ずることで決議した。

3) 配布数の件

印刷部数については、会員数等を考慮し4000部でよいかと提案があり、承認した。

8. JSR 編集委員会より：学術集会アプリ:MICE navi 見積

前回理事会で決定したMICE naviについて、アプリの2方式を説明し、それぞれの見積を提示した。違いは、JSSR独自のアプリであるか、マイスナビのなかの1つのコンテンツかである。

前者はトップページに広告掲載が可能だが、後者はトップページはマイスワンになる。見積額は前者が毎年約25万円高い。独自アプリは大型学会の多くが採用しており、委員会では前者を推す意見が多かった。

一同検討の結果、前者の独自アプリとすることとし、見積額も承認した。

9. プロジェクト委員会より：令和4年度予算案の件

来年度の予算に関して、現在進行中のすべてのプロジェクトの予算を提示した。頸肩腕症は1症例1万円を支払うため今期は予算が膨らんでいるが、終了が近く、次年度以降は予算化しない予定であると説明した。

一同検討の結果、承認した。

10. 英文誌編集委員会より：SSRR アワード設立へ向けての予算申請と選定基準案の提出
SSRR アワードについて委員会では以下 3 つのアワードを計画しており、その副賞金額については 30 万円を提案した。

新設する SSRR Paper Award：2023 年 1 月の選考開始に向けて選定基準を策定中

- ① Best Paper Award：前年度掲載論文対象
- ② High Citation Award：3 年前の掲載論文を対象に、翌 2 年間の被引用件数
- ③ Best Reviewer Award：前年の Top Reviewers 首位者

検討のうえ一同承認した。

今後委員会内でさらなる検討を進める。

11. その他

・評議員会・総会での3名の名誉会員の黙祷

開会時に説明した、「評議員会・総会での黙祷の方法」について改めて確認し承認した。

・女性評議員候補の件

回覧した安宅先生と鉄永先生の評議員立候補資料に、評議員選考委員会として特段指摘がなかったので、他の評議員候補者とともに4月の評議員会で承認を得たいと発言し、一同承認した。

・5月の理事会の件

5月の日整会総会時に対面で理事会をするかどうかについて検討し、新体制最初の会議となるので対面とすることとなった。学会初日（5月19日）の昼を予定する。

3. 審議・報告事項

1. 倫理委員会報告

プロジェクト研究「コンドリアーゼ椎間板内酵素注入療法と内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術の費用対効果の比較検証」について委員会審査完了後、理事長名で研究承認、結果通知を行った。

2. 広報委員会報告

前回以降のホームページの更新状況を報告した。

また、日本整形外科学会の患者向けパンフレットについては依頼された全項目について日整会広報渉外委員会へ提出済みであり、今後の先方の委員会の審議を経て、修正作業を行う予定である。

3. 指導医制度委員会報告

2月8日に行われた委員会で、JSSR-DBと指導医申請との関連づけについて議論をした結果、委員会内では以下の結論に達したと報告した。

- ② 2022年4月1日以降は原則JSSRデータベースに登録されている症例を継続申請に用いる。
- ② 但し、やむを得ず登録されていない症例を使用する場合には、申請書の下理由欄の中から選ぶとして、理由欄の選択肢も提示した。
- ③ 新規申請に関しては5年間の猶予期間を設け、2027年度申請者から、原則全例JSSRデータベースの症例とする。
- ④ JSSR全会員に上記を周知し、HPにも記載する。継続申請者には、継続申請のお知らせにこの内容を含める。

一同委員会内の結論を承認した。

会員への周知を、可能な限り複数回行う必要があることも併せて確認した。

4. 学術集会プログラム等検討委員会報告

第50回学術集会については最終決算を説明し、約4460万円を学会へ返金することを報告した。

第51回は今のところ演題数や採択率は例年通り。現地開催のみの予定だが、今後緊急事態宣言が発出された場合はハイブリッド形式を選択する。晚餐会については3月21日までに結論を出す。全員懇親会での飲食は行わない。

指導医イブニングセミナーについては、指導医取得・継続にとって大事なセミナーなので、今回もwebで受講できるように準備している。

第52回については、働き方改革を見据えつつ、多くの参加者を募るためにもハイブリッド開催（現地、ライブ配信のみ。オンデマンドなし）を想定している。

5. 社会保険等システム検討委員会報告

大鳥理事が、2022年度診療改定での要望結果（中医協審議結果）、新規要望項目として① 自己骨髄由来間葉系幹細胞移植術（JSSR）採用 22280 点、改正要望項目人工椎間板置換術の技術料改定（JSSR）：採用 36780から40460へ増点が決定したと報告した。ヘルニコアについては不明な記載があるが、おそらく医師要件の緩和があると考えている。

側彎症関係は、エビデンスを構築しないと増点や新規採択は厳しい。

日本脊髄外科学会（NSJ）からの提案は、顕微鏡下腰部脊柱管拡大減圧術：採用 24560点、癒着性脊髄くも膜炎手術：採用 38790 点の2点が採用となった。

6. プロジェクト委員会報告

プロジェクト研究症例進捗報告を行った。1月は登録が少し減った。横ばいとなっている研究もあるため、引き続き声掛けを行っていく。

7. 英文誌 (SSRR) 編集委員会報告

令和3 (2021) 年度の委員会予算は150万円だったが、予想をはるかに上回る投稿数だったため150万円程度超過してしまったと報告した。来年はそれを踏まえて予算申請する。

8. 国際委員会報告

伊東理事が、SPINE20の組織について説明した。

Partner societies は16団体あり、JSSRはそのうちChair of PAB (Partner Society Advisory Board、まとめ役、ガイドラインを作るなど) となっている。

8つの団体が新たに加盟したいと希望しているので、加盟の可否を検討している。

JSSRの会員でもあるBAMBANG先生が会長をされる今年のSPINE20 annual meeting in Bali (8月4-5日) では、JSSR & BSS (Brazilian Spine Society)で共同演題を用意する。オンラインで参加できる形になる予定だが、詳細が決まり次第理事会で報告する。

また、2023年は5月1-3日メルボルンでの開催が決定し、JSSRとして2枠程度の参加予定となっている。

9. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

2025年に日本脊椎前方側方進入手術学会 (JALAS)、日本脊椎インストゥルメンテーション学会、日本成人脊柱変形学会、日本側弯症学会、日本低侵襲脊椎外科学会 (JASMISS) の5学会は合同開催の予定している。各学会長を含めたWGを結成し、早期にコンベンションを一社に決定するために選定準備に入ったことを説明した。

また、日本消化器関連学会機構が各学会の学術集会を合同で行っているため、波呂副理事長がその事務局とWeb面談を行った内容を説明した。

10. その他の委員会報告

・データベース委員会より JSSR-DBの進捗

先ごろより収集していた合併症のデータについては延長のうえ2月中旬で締め切ったが、最終的には個別に電話するなどして、できるだけデータを集めたと報告した。

・財務委員会より 予算案提出の件

1月上旬に各理事へ提出を依頼した2022年度委員会予算について、提出のない委員会は

3月初めまでには提出していただくようお願いしたい。

11. その他

・ JOS査読への協力依頼

波呂副理事長がJOSのアソシエイトエディターをしているので、査読等には積極的に協力してほしい。

波呂副理事長からも、特に中国から大量の投稿があり大変な状況であるのでぜひ理事各位には協力をお願いしたいとの発言があった。

以上

令和4年2月21日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭